

4. 主な公共施設の整備

この章では、現在の明原を形作るのに影響が大きかった、国道6号の建設、柏駅西口の開設、明原地区の区画整理、および、柏中学校の変遷について示します。

4.1 国道6号の建設

<国道6号全般>

国道6号は、東京日本橋から仙台にいたる約350kmの国道です。戦後、一連の改築工事が実施されました。流山～柏区間は、昭和27年度から31年度にかけて、新たなルートでの建設が行われました。柏東口側の柏神社の前を通っている旧水戸街道に代わるもので、地元では建設後かなり長い間、新国道という呼び名が一般的でした。

また、昭和42年度から44年度には、同区間について、片側2車線とする道路の拡幅工事が行われ、概ね現状の姿となりましたが、その後も各種の道路整備が続けられています。

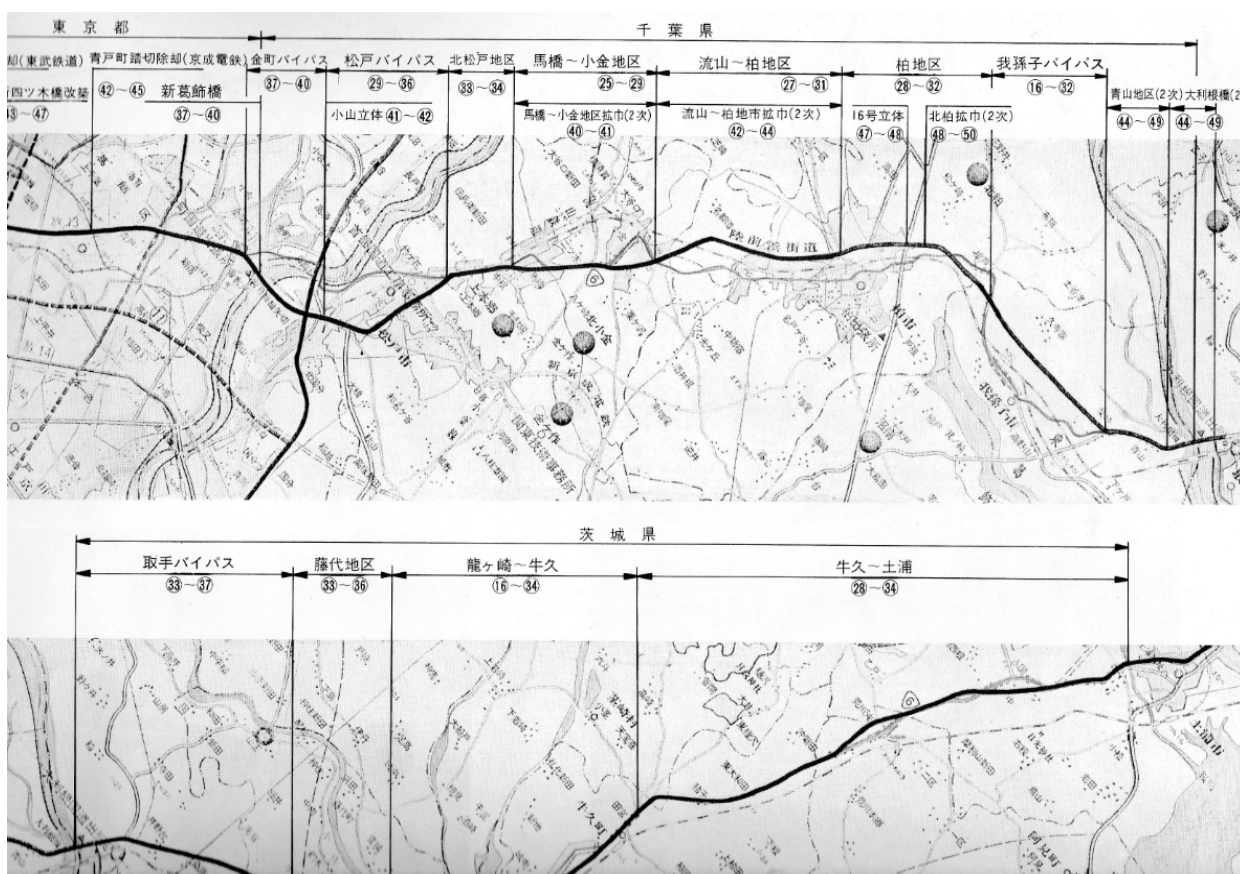


図 4-1-1 国道6号の改築年度(○印の数字は昭和の年度)

<柏区間の建設と写真>

国道6号の柏区間の建設工事では、現在の柏駅西口交差点の駐車場の場所に、広い建設資材置き場が設けられました。小高くなっていた松林が切り拓かれて造成されたものです。当時、少なかった建設機械のブルドーザーは、子供達には珍しいものでした。資材置き場は、近所の子供達にとって、叱られながら入り込む遊び場となりました。

昭和 20 年代には、世の中にトラックは充分に無かったため、建設資材の運搬には、主にトロッコが用いられました。建設中の道路に、トロッコの線路が敷設され、土砂や路盤材の運搬に用いられました。

国道 6 号建設の頃の思い出

林野を切り開いて、現 6 号線柏駅西口交差点付近の国道工事が本格化してきた昭和 27～28 年頃は、赤土がむき出しの広場は、「広い道」と呼ばれ、子ども達の格好の遊び場でした。

切り開かれた土はダンプカーではなく、トロッコで運び出されており、そのトロッコを押したり、乗ったりするのが楽しみでした。自転車の練習をしたのもこの場所でした。

現在ニッポンレンタカーがある場所と、その向かいに分かれて 6 号線建設事務所があり、そこから時折姿を現すオジサンの目を盗んで毎日暗くなるまで遊んでいました。

昭和 30 年頃の夏休みのラジオ体操は、現在の柏中、珈琲館の五差路がまだ舗装されてなく、根を強くはった草が生い茂っており、その草を刈って当時はやり始めたトランジスタラジオで行いました。また、町会で木造の船を借り切ったの潮干狩りも楽しみな物でした。

写真-1 松戸地区でトロッコを使用した工事
風景（昭和 25 年頃の松戸市ニツ木付近）



写真-2 完成直後の国道 6 号で南柏付近、
道路の周辺はまだ閑散としている。
（昭和 31 年頃）



写真-3 昭和 37 年撮影の国道 6 号
の柏駅西口交差点、柏駅側から柏
中方面を見たもの。



写真-4 同じ国道 6 号
の西口交差点で正面は
柏中方面。昭和 50 年の
写真で、ビルが建ち現
在の状態に近づいてい
る。(昭和 50 年 9 月)



写真-5 拡幅工事後
の片側 2 車線の国道
6 号で、あけぼの町
付近。(昭和 50 年 9 月)



写真出典：「国道 6 号の今昔」
昭和 50 年発行
関東地方建設局 首都国道工事事務所

4.2 柏駅西口の開設

< 柏駅の新設 >

1896 年（明治 29 年）に、日本初の私鉄であった日本鉄道が、現在の常磐線の南部区間である土浦－田端間を開業し、そこに柏駅も新設されました。なお、日本鉄道は、1906 年（明治 39 年）に国有化され、また、1909 年（明治 42 年）には、線路名が常磐線となりました。その後、東武線野田線、船橋線の前身が開通し、その駅も柏駅に統合されていきます。

< 西口開設の要望 >

1956 年（昭和 31 年）に柏駅西口が開設されるまでの 60 年間、柏駅は東口のみでした。柏駅東口側は、商店街とその外側は住宅街として開けていきました。一方、柏駅西口一帯は、駅裏の位置づけで、自然のままに放置されてきた地域でした。（増田保著「柏駅西口開設の思い出」）。

柏駅西口開設の要望は、東口に比べて遅れている西口側の市街化開発に加え、西口側には主要施設として東葛高校や柏中があり、国道 6 号の建設が進んでいたことと関係があったようです。

その他、柏競馬場が 1952 年（昭和 27 年）に廃止になり、広大な跡地の有効利用や、更には、戦時中には陸軍柏飛行場で、戦後は米軍の通信施設が置かれた現在の柏の葉地区の開発も関係者の念頭にあったようです。（前出「柏駅西口開設の思い出」）

< 西口開設当初 >

柏駅西口ができるまでは、今は跨線橋が架かっている一小通りの踏切か、旭町側の大踏切を通過して柏駅東口に廻って行っていました。西口ができたことで、通勤通学に要する時間が短縮されました。

西口開設当初は、後記の図 4-2-1 に示されるように、駅前の外縁には住宅があったのですが、駅前にはほとんど何も無い状態でした。商店としては、今は無くなった神崎家具屋さんが一軒あるだけでした。

柏駅西口の下駄箱

柏駅西口が開設された昭和 30 年代前半は、西口地区の舗装はほとんど進んでいませんでした。雨が降ると道は泥んこです。また、冬季に霜柱が溶けた後も同様でした。泥道を歩くのには、長靴が必要になります。しかし、晴れた日に、長靴で東京まで通勤するわけにはいきません。柏駅西口で長靴を革靴に履き替えて通勤していました。そのため、柏駅西口が開設されて暫くの間、柏駅西口には下駄箱が設置されていました。

その他、今の明原 3 丁目に住んでいた方の中には、カドヤで革靴に履き替えて通勤していた方もいたようです。

東口側の雨水や下水が、駅の両側の線路の下の水路を通過して西口側で合流し、国道 6 号の下をくぐり、柏中南側の水田に沿った水路を通過して大堀川へと流れていました。西口の駅前は砂利の広場で、その先にはもと水田であった湿地が残っていました。

また、国道寄りには広場があり、町内会の小学生の草野球の練習場としても利用されていました。

なお、現在のように駅に入らずに自由に通行できる連絡跨線橋が出来たのは、橋上駅舎（現在の中央口）ができた昭和 46 年のことです。それまでは、東口の商店街に行くのには、上述の踏み切りか、その後にした跨線橋を渡っていくことが続いていました。

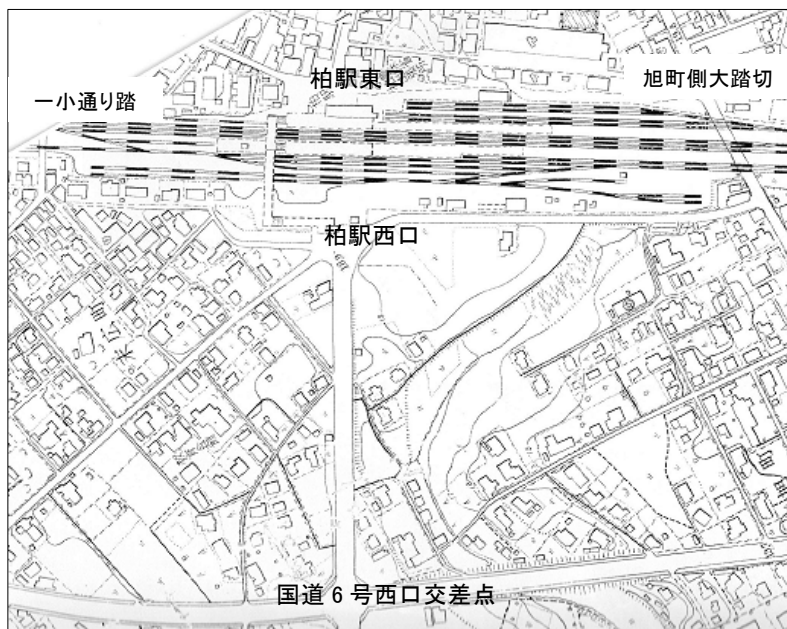


図 4-2-1 柏駅西口周辺

出所: 柏市都市計画図(昭和 32 年)



図 4-2-2 完成間近の柏駅西口

出所: 昭和 31 年、柏市広報紙第 18 号

4.3 明原地区の区画整理

＜昭和 30 年頃＞

昭和 30 年頃の明原地区は 3.2 項に示したように、おおよそ次のような状態でした。現在の明原 1 丁目地区は、戦後に建てられた家がありましたが、畑や林・草原が宅地面積の数倍を占めていました。2 丁目地区は一番宅地化が進み、畑や林は少なかったように思います。3 丁目地区は、面積はかなり広いのですが、林や草原と畑が大半を占め、住宅は数えるほどでした。4 丁目地区は、柏中の南側草原のスロープの先に水田があり、水田の縁に沿って住宅が建っていました。

昭和 20 年代後半の蛍

昭和 20 年代後半のことです。明原 1 丁目に住んでいた我が家の南側には水田がありました。南側に広い庭の家が一軒あったので、水田からは直線距離で 50m くらい離れていましたが、庭に蛍が飛んできました。生垣にとまっている蛍を数匹つかまえて、蚊帳に入れて寝たことを覚えています。

蛍が飛んでくるのは、それほど長くは続きませんでした。食料増産のために昭和 20 年代半ばから始められた水田での農薬の使用のためか、都市化の進展のせいか、理由ははっきりしません。

現在の明原との大きな違いは、明原地区は水田に囲まれていたことです。前述のように、現在の明原 1 丁目と東葛高校の間には水田があり、その水田は柏中の南側の水田、現在の豊四季台近隣センターの付近も水田で、大堀川沿いの水田へと繋がっていました。また、現在の明原 2 丁目とあけぼの町の間にも水田がありました。

＜柏市の区画整理＞

土地区画整理事業は、道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善するとともに、併せて土地の区画を整えて宅地の利用価値を高める事業です。土地所有者から、所有土地の面積や位置などに応じて、少しずつ土地を提供（減歩）してもらい、それを道路や公園などの公共施設用地に充てて整備します。区画整理事業は、受益者負担を原則としているため、減歩された土地の一部は保留地とされ、売却して事業費の一部に充てられます。

平成 25 年 4 月現在、柏市では合計で 28 の区画整理事業が完了しており、その他に 7 件の区画整理事業が施行中です。

柏市が誕生したのは昭和 29 年ですが、最初の区画整理事業は、昭和 28 年に施行開始された「南柏第一」地区の事業です。次に実施されたのが、昭和 33 年から始められた明原地区を中心とする「柏駅西口」地区名の区画整理です。

＜明原の区画整理＞

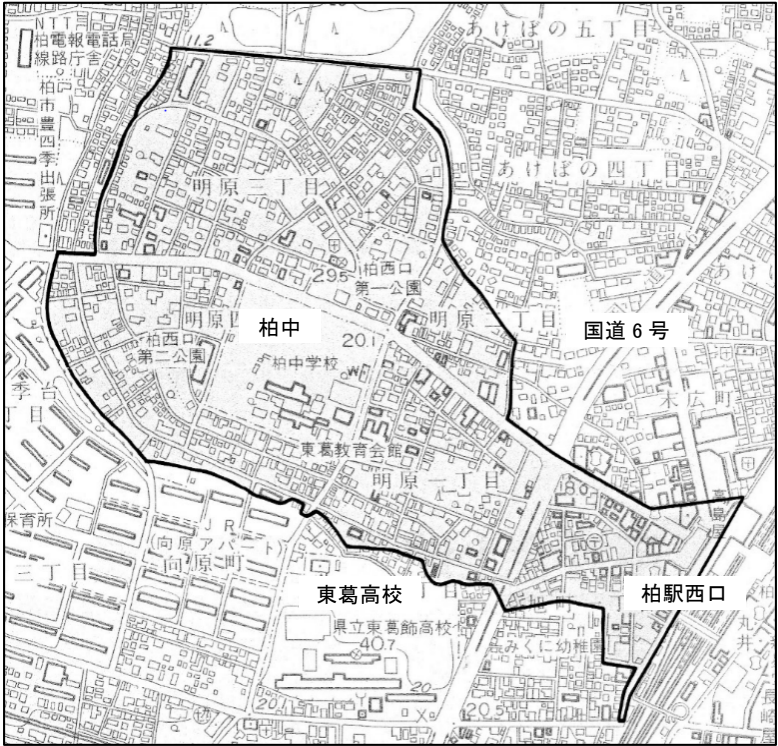
「柏駅西口」の地区名で施行された明原の区画整理事業は、昭和 32 年末に都市計画が決定され、翌年から昭和 45 年まで行われました。

明原地区は柏駅西口に近く人口が増加しており、柏中を含み東葛高校にも隣接しているため、早期に整備が必要と考えられていました。加えて、明原地区を取り囲んで

いた水田は、豪雨時には市中心部の雨水も流入し、水田の機能があまりよくなく、処理が必要と考えられていたようです。

図 4-3-1 柏駅西口区画整理事業の範囲

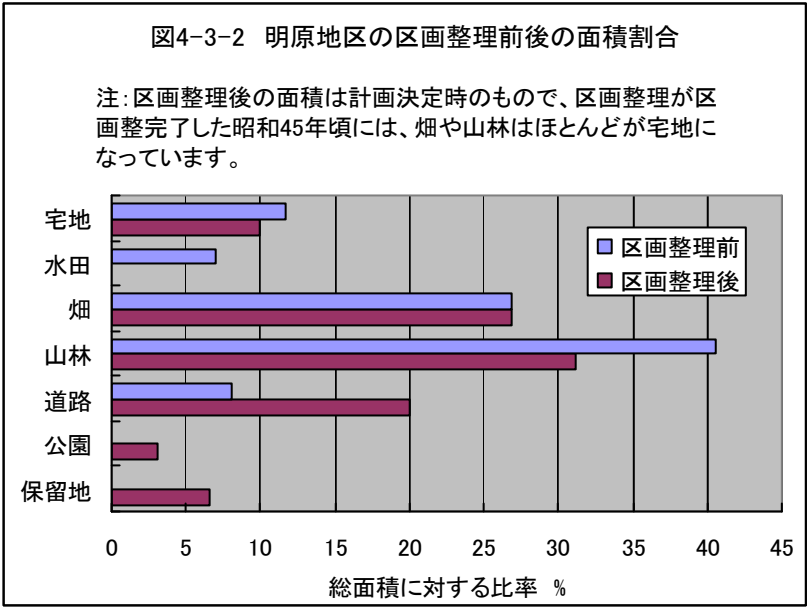
出所: 柏市の区画整理資料



上図に示されるように、対象地域は、現在の明原に加えて、柏駅西口に接する旭町1丁目も含まれていました。右下が柏駅西口です。施行地区の面積は 41.7ha で、坪数に直すと 12 万 6,000 坪になります。

図 4-3-2 には、区画整理の計画をグラフで示しました。区画整理の前と後での、総面積に対する各用途の土地の面積比率の変化を示したものです。

なお、この面積比率は、計画決定時点のもので、道路や公園は、実際の面積とほぼ同じであると思いますが、畑や山林は、区画整理が完了した昭和 45 年頃には、ほとんどが宅地に変わってしまっ



いることに注意して下さい。

グラフから分かるように、区画整理前に約 7%を占めていた水田は、区画整理で無くなりました。道路面積の比率は、区画整理前が 8%でしたが、区画整理で 20%に拡大しました。以前からあつた道路の幅が広げられ、また、新たに多くの道が造られました。

計画書の数値によれば、区画整理前に、総面積の約 88%あつた民間用地は、区画整理で約 70%に減り、それらの土地は道路の拡張・新設や公園の新設などになるとともに、約 6.5%の保留地になりました。

区画整理の結果、明原は行き止まりの道もほとんどなく、道路が比較的整備されていると思います。

図 4-3-3 は、昭和 41 年の柏市都市計画図の明原周辺です。例えば、かつて畑や林だった現在の明原 3 丁目地区には、道路が新設されています。同図からは見難いかもしましませんが、柏中の西側や南側の道路は点線で示されており、この時点ではまだ建設中であつたことが分かります。



図 4-3-3 昭和 41 年の柏市西口側の明原周辺地域

出所: 柏市都市計画図 (昭和 41 年)

4.4 公園の整備

西口第一、第二、第三公園は、上述のように区画整理の一環で土地が確保されたものです。面積は第一公園が 0.84 ヘクタール（約 2,570 坪）、第二公園が 0.30 ヘクタール（約 910 坪）、第三公園が 0.12 ヘクタール（約 370 坪）です。3 つの公園を併せた面積は、明原の総面積の約 3%を占めています。

3.3 項で紹介した昭和 41 年の明原の地図にも、公園の土地が表示されています。但し、公園施設の整備が完了するのには、もう少し時間を要しています。

<西口第一公園>

通称機関車公園（汽車公園）と呼ばれている柏西口第一公園は、昭和 41 年に設置され、その後、施設の整備が行われました。翌 42 年に管理事務所が竣工し、43 年にかけて植樹や各種遊具が設置されました。当時は、子供の野球場もありました。

昭和 45 年には西口市民プールが開設され、昭和 49 年には国鉄から D51 蒸気機関車と鉄道信号機が無償貸与され設置されました。一連の施設整備が完了し、昭和 51 年 4 月に正式に供用開始したことになります。

<西口第二公園>

西口第二公園は、区画整理により土地は早期に確保されていましたが、昭和 48 年に管理事務所が建設され、遊具、照明灯、水飲み場等が設置され、翌年 3 月末に公園設置となりました。同公園の管理事務所は、豊四季台近隣センターとともに、明原の地域活動の拠点になっています。

公園の供用開始は、第一公園と同様に昭和 51 年 4 月とされています。

<西口第三公園>

西口第三公園は、パイプ・フェンスに描かれたパンダの絵から、周辺の母親からはパンダ公園と呼ばれています。

住宅に囲まれ三つの内で一番狭い公園で、設置時期の記録ははっきりしませんが、昭和 58 年に供用開始されたものです。

西口第二公園の管理事務所

管理事務所は、町会をはじめ多くの団体やサークルに利用されてきました。当初、常駐の一家族が管理業務を担当していました。

平成 10 年に宿直居住室を除いた部分を、更に、13 年に管理人の転出により、建物全部を明原町会が管理代行することになりました。以降、三年毎の使用許可を得ながら現在に至っています。その間、町会の費用で、

平成 21 年 屋根補修工事

同 23 年 1 階和室 8 畳フローアー等工事

同 25 年 1 階和室 12 畳フローアー等工事を施しながら、大切に維持し続け、活動の根拠地として有効に活用してきましたが、建物の老朽化の対策も必要になっています。



柏西口第一公園 (8,478m²)



柏西口第二公園 (3,000m²)



西口第三公園

図 4-4-1 明原の公園、Google Earth による俯瞰図

4.5 柏中学校

柏中は明原の中央に位置し、明原 1～4 丁目の合計面積は約 40 ヘクタールですが、柏中の敷地面積は約 4 ヘクタールで、明原の 1/10 を占めています。我が子を通う中学ということの他に、夏の盆踊りなどの大きなイベントの会場となり、災害時には地域の避難拠点にも想定されています。柏中の変遷は、明原地区の変遷の一部をなすものと言えると思います。表 4-5-1 には柏中の沿革を示しました。

表 4-5-1 柏中学校沿革抜粋

期日	事項	注
昭和20年8月15日	太平洋戦争終結	*
昭和22年4月	6・3・3・4制への学制改革により、新制中学校の入学開始	*
昭和22年5月1日	柏町立柏中学校として開校、柏一小の校舎の一部を使用	
昭和23年6月1日	柏中学校建設資金町債(額面金100円)	**
昭和23年8月31日	現在地に校舎落成、移転	
昭和25年4月6日	柏中学校校舎第二期工事竣工	**
昭和25年4月	校地整備計画実施	***
昭和27年9月	講堂落成式を実施	***
昭和29年9月1日	市制施行により、東葛市立柏中学校と改称	***
昭和29年11月15日	市名を柏市と変更し、柏市立柏中学校と改称	
昭和36年3月9日	新校舎落成(9教室、第二校舎)	
昭和37年4月1日	新校舎落成(18教室、第二校舎)	
昭和38年6月9日	プール完成	
昭和39年5月2日	新校舎落成(第一校舎)	
昭和42年4月1日	光ヶ丘中学校分離	
昭和45年1月31日	体育館完成	
昭和46年12月14日	特別教室棟落成(第三校舎)	
昭和47年4月1日	柏第三中学校分離	
昭和52年4月1日	柏第五中学校分離	
昭和54年4月1日	西原中学校分離	
昭和55年2月17日	新校舎落成(第四校舎)	
昭和60年9月10日	第一校舎改修	
平成元年4月15日	プール改築	
平成2年4月1日	豊四季中学校分離	
平成2年9月14日	昇降口改築	
平成3年2月28日	格技場新築	
平成4年4月11日	コンピュータ室設置	
平成6年7月15日	体育館屋根工事	
平成9年1月14日	第三校舎屋根修理	
平成13年2月21日	新校舎等増改築工事竣工	
平成13年4月27日	完全給食開始	
平成13年6月2日	新校舎落成記念集会	
平成13年7月21日	旧校舎解体工事開始	
平成14年1月24日	旧校舎解体工事、体育館通路工事完了	
平成20年8月6日	柏中学区学校支援地域本部事業設立	
平成25年11月25日	新体育館建設工事開始	
平成27年2月17日	新体育館落成記念式典	

出所: 柏市立柏中学校のウェブページの学校沿革より抜粋

なお、*印項目は筆者追加、**印は柏市史年表、***印は柏市立柏中学校 - Wikipedia

＜柏中の創設＞

太平洋戦争が終結した後に行われた一連の事項の一つに、教育制度の改革があります。6・3・3・4 制の学制改革が実施され、昭和 22 年 4 月から新制中学校への入学が開始されました。当時の柏町では、昭和 22 年 5 月 1 日に新制中学として柏中学校が創設されました。

柏中学校創設の思い出、初代校長石毛敏治氏

（柏中学校創立 50 周年記念誌、1997 年 6 月発行より抜粋）

明原地帯一帯は町の薪炭生産地として、櫨や櫟の密生する雑木林であり、これに隣接する地は広大な競馬場でした。戦時中の計画によれば、この競馬場に一大軍需工場を建設し、雑木林地帯はこの工場の福利施設予定地とされていました。それが実施に移され林が伐採されたのは私が、柏小学校校長として着任二年目の事でした。しかし戦況は末期現象を呈し、樹木伐採後全く放置の状態でした。これを見た私は許可を得て開墾を開始したのです。

昭和 20 年 8 月、終戦、敗戦によって虚脱状態になっていた私が再び生氣を取り戻したのは町議会からの通報でした。その内容は学制改革による新制中学校の校舎は富勢地区の兵舎を移築する。設置場所は私が子供達と開墾した地であると…その面積は実に七町五反三畝（約 7.5 ヘクタール）、私は驚喜しました。というのは、第一に新制中学校々地としては県下随一の広大なものであり、旧柏町の中心に位置します。次に東葛飾高等学校に隣接し良い環境であり、更に何といても生徒達の尊い開墾の汗が浸み込んでいるからです……

敗戦後の混乱の中、校舎の建設は間に合わず、柏一小的の校舎の一部が使用されました。柏中は、柏町全域を対象とした広い学区の中学でした。なお、土村、田中村、富勢村は、柏町の一部ではなく、各々に新制中学が開校されました。また、東葛飾中学校は、昭和 23 年 4 月に東葛飾高等学校に変わりました。

23 年 8 月末に、現在の明原の場所に柏中の校舎が完成しました。戦時中の富勢の部隊の兵舎を移築改造した木造 2 階建ての校舎でした。一般に、校舎は南側に教室、北側に廊下が配置されていますが、中央の廊下の南側と北側に教室がありました。

右図に示す昭和 24 年初めの空中写真では、まだ、グラウンドが整備

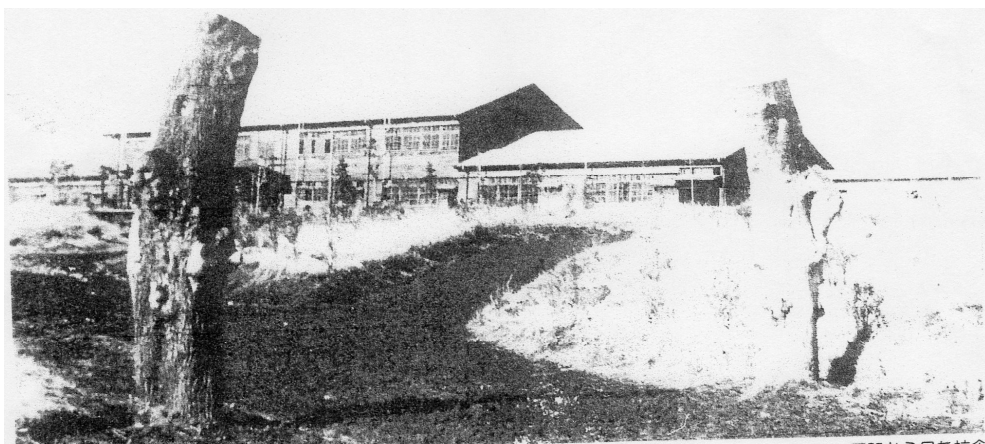


図 4-5-1 柏中の校庭(1949 年 1 月)

白い部分が校舎、周囲は畑。

出所: 国土地理院ウェブ、米軍撮影

されていないことが分かります。



昭和 23 年にできた最初の柏中の校舎、
南東の角の正門からの写真



柏中の空中写真(1955 年 10 月)
出所: 国土地理院ウェブ、米軍撮影

図 4-5-2 柏中の最初の校舎と校庭

戦後の資金難のもと、昭和 23 年 6 月には柏中学校建設資金町債（額面金 100 円）が発行され、町民による資金協力が行われました。昭和 25 年 4 月に校舎二期工事が竣工し、校庭も整備されました。昭和 27 年 9 月には講堂（体育館）が完成し落成式が行われました。

敗戦直後の食糧難、資材不足の状況下で、中学校が優先的に整備されたのは、教育の重要性が皆に浸透していたためと思います。

<区画整理の前後>

区画整理以前には、柏中は今よりも広く、約 7.5 ヘクタールの敷地を有していました。昭和 30 年頃には、図 4-5-1 に示したように南側は草原のスロープが水田の縁まで広がり、西側は草原と灌木の茂み、東側と北側の境界は低い土手と生垣であったように思います。資材不足で、フェンスを造る余裕がない時代だったものと思います。正門は南東の角でした。

昭和 40 年前後に、柏中周辺の区画整理が行われました。その結果、南側の草原のスロープと、西側の草原と灌木の茂みは、道路と宅地、西口第二公園の敷地などに変わりました。柏中の広さは約 4 ヘクタールに縮小しました。それでも、多くの中学校に比べて、ずい分広い校庭の中学であると思います。

<人口急増と学区分離>

柏中は旧柏町の全域を学区として開校されたものですが、その後、柏町に旧土村、田中村および富勢村の一部が加わり柏市が誕生しました。柏市は昭和 30 年代半ば頃から、東京のベッドタウンとして人口が急速に増加します。

そのため、昭和 42 年には光ヶ丘中学校が開校し、柏中の学区から分離されました。昭和 47 年には柏第三中学校、昭和 52 年には柏第五中学校、昭和 54 年には西原中学校が、次々に柏中から分離されました。

柏中の学区は縮小されていきましたが、それでも、平成 2 年に豊四季中学校が分離する前には、柏中は生徒数が日本一のマンモス校と言われました。

<新校舎の変遷>

鉄筋コンクリート 3 階建ての最初の新校舎は、昭和 36 年 3 月に第二校舎の 9 教室が完成し、翌 37 年 4 月に 18 教室が完成しました。図 4-5-3 は、最初の新校舎の工事最終段階の写真です。

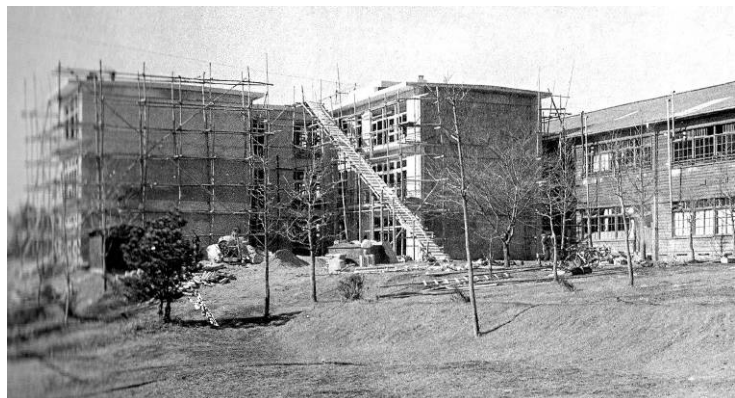


図 4-5-3 昭和 36 年に竣工した最初の鉄筋コンクリート
3 階建て新校舎の工事最終段階
出所:昭和 36 年卒業アルバム

その後、戦後最初に移設された校舎は撤去され、昭和 39 年 5 月に第一校舎が完成しました。図 4-5-4 はその新校舎の正面です。



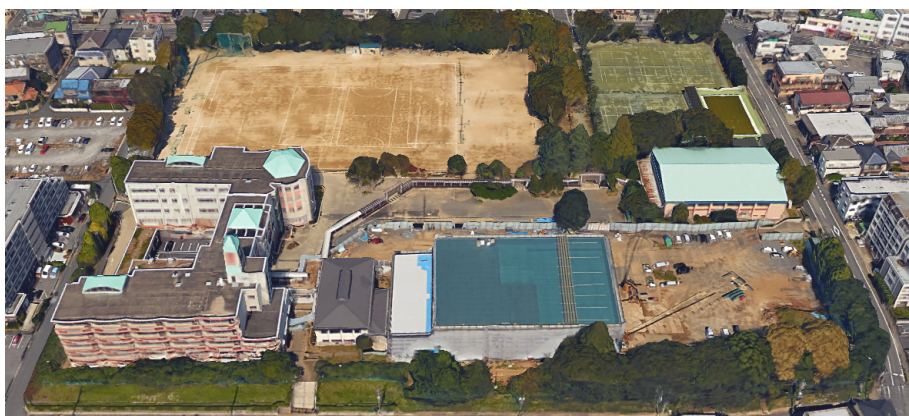
図 4-5-4 昭和 39 年竣工の新校舎正面

出所:平成 3 年卒業アルバム

更に、新たな校舎や体育館が整備され、平成 13 年には現在の校舎ができました。図 4-5-5 は、平成 28 年現在の校舎と新体育館および校庭の全景です。



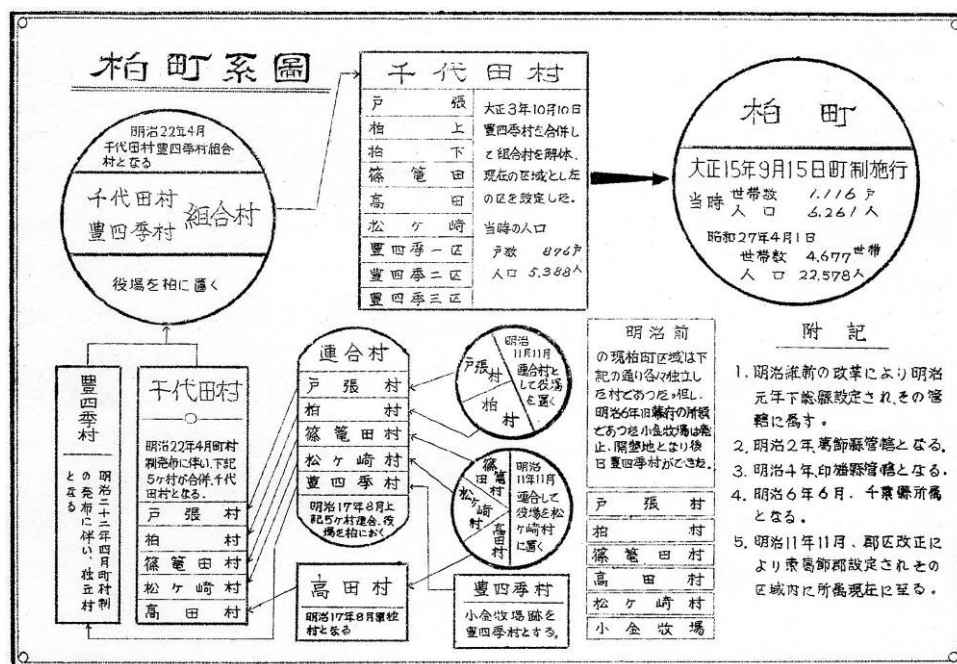
平成 28 年現在の校舎正面と体育館



校庭全景(平成 27 年頃) 出所:Google Earth

図 4-5-5 平成 28 年現在の校舎と校庭全景

柏市・柏町の誕生



出所：柏町役場編「柏町勢要覧」昭和 27 年度版

1954 年（昭和 29 年）9 月 1 日、柏町は土村・田中村・小金町と合併し、市制を施行して東葛市となりました。しかし、旧小金町区域の多くは松戸と繋がりが強く、その後、一部を残して旧小金町区域は松戸市に編入されました。更に、同年 11 月 1 日、富勢村は分村し、東葛市と我孫子町に編入されました。

多くの市民は柏の名称になじみが深く、同年 11 月 15 日東葛市は柏市に改称されました。

ところで、柏町はどのように誕生したのでしょうか。上図は、昭和 27 年度版「柏町勢要覧」に掲載されている柏町の系図です。

上図によれば、江戸時代に既に柏村や篠籠田村などがあったことが分かります。明治に入り連合村の形成を繰り返したあと、各々合併してできた千代田村と豊四季村は、1889年（明治22年）4月に千代田村豊四季村組合村となりました。

1914 年(大正 3 年)10 月 10 日に同組合村は、豊四季村を合併し千代田村となり、1926 年(大正 15 年)9 月 15 日に町制を施行し柏町になりました。

柏町の町制施行時の世帯数は 1,116、人口 6,261 人、昭和 27 年 4 月 1 日の世帯数は 4,677、人口 22,578 人、柏市制施行翌昭和 30 年 10 月の世帯数は 8,586、人口 45,020、最新の平成 27 年 10 月の世帯数は 178,092、人口 408,678 です。柏は 1960～1990 年に急速に人口が増加しました。